

# 大津歴博 だより

## 第128回ミニ企画展

# 平成27年度 新収蔵品展

平成28年4月26日(火)～6月5日(日)

【休館日：月曜日、5月6日】



購入3・4 江辰板 東海道五十三次之内 大津 石部 歌川広重画



購入6 山庄板 東海道五十三次之内 水口 歌川広重画



購入7 近江八景 唐崎 平塚運一画

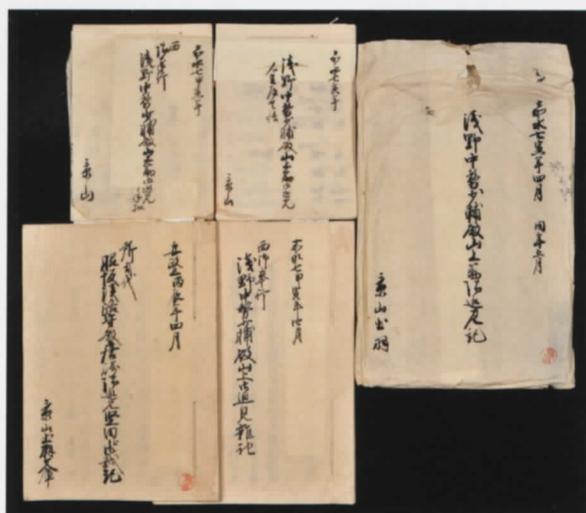
歴史博物館では、毎年ミニ企画展コーナーにおいて、新たに収集した資料を紹介する「新収蔵品展」を開催しています。平成27年度は、希少な18世紀前半の大津絵座頭をはじめ、与謝蕪村門人であった大津の僧侶、龍賀の描く俳画風の天津絵、広重の東海道五十三次（通称 行書東海道）、木戸宿の文書群、半世紀以上前の大津祭ポスターなどを購入した他、受贈品としては、堅田の旧家伝来の中世以来の古文書群、宮大工資料、琵琶湖の蒸気船乗船札、戦中戦後の戦時関係・教育関係資料など、大津の歴史と文化を語るうえで大変貴重な資料が新たに加わりました。

本展によって、大津の様々な姿を新収蔵品の数々によって触れていただくとともに、皆様のご家庭に残されている資料につきましても、情報をお寄せいただく契機となりましたら幸いです。

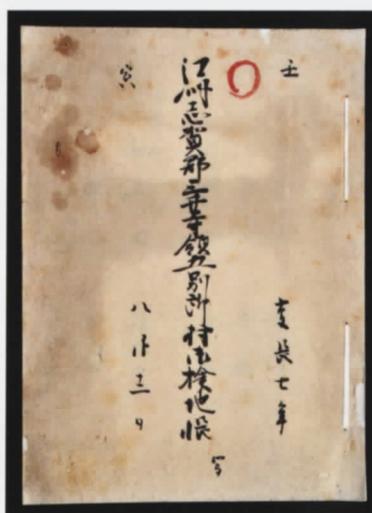
## 【新収蔵品目録】

購 入			
1	大津絵 座頭	1 幅	江戸時代
2	四種大津絵図 龍賀筆	1 面	江戸時代
3	江辰板 東海道五十三次之内 大津 歌川広重画	1 枚	江戸時代
4	江辰板 東海道五十三次之内 草津 歌川広重画	1 枚	江戸時代
5	江辰板 東海道五十三次之内 石部 歌川広重画	1 枚	江戸時代
6	江辰板 東海道五十三次之内 水口 歌川広重画	1 枚	江戸時代
7	近江八景 唐崎 平塚運一画	1 枚	昭和 2 年 (1927)
8	浅野長祥・脇坂安宅山上等巡見記 (旧景山家文書)	4 冊	江戸時代
9	江州志賀郡三井寺領五別所村御検地帳写	1 冊	江戸時代
10	近江国滋賀郡木戸宿文書	21 冊	江戸時代
11	東海道線大津京都間線路変更工事竣工記念写真帳	1 冊	大正 10 年 (1921)
12	大津絵人形 (翁鶴堂製)	1 組	昭和 (戦前)
13	大津祭・浜大津花火大会ポスタ	1 冊	昭和 (戦後)

受 贈			
1	山陰雪月図 横井金谷筆	1 幅	江戸時代
2	蠶螂図短冊 村瀬雙石筆	1 幅	江戸時代
3	柳塘山水図 山田苔翠筆	1 幅	昭和 (戦前)
4	春海耕作図 柴田晩葉筆	1 幅	昭和 (戦前)
5	居初家文書	一括	室町時代～昭和
6	長谷川家文書	一括	明治時代～昭和 (戦後)
7	川合家宮大工関係資料	一括	江戸時代～昭和 (戦後)
8	立葵紋瓦	2 点	江戸時代
9	藤野家近現代学校関係資料	61 点	明治時代～昭和 (戦前)
10	滋賀県管内滋賀郡地理小誌	1 冊	明治 13 年 (1880)
11	乗船札	2 点	明治時代
12	第一回国勢調査記念録	一括	大正 10 年 (1921)
13	上京町昭和御大典祝賀行列集合写真	1 点	昭和 3 年 (1928)
14	強力消火弾	3 点	昭和 (戦前)
15	戦時記念朱塗盆	1 点	昭和 (戦前)
16	木銃	1 挺	昭和 (戦前)
17	陶製湯たんぼ	2 点	昭和 (戦前)
18	千人針	1 点	昭和 (戦前)
19	中西家戦時資料	14 点	昭和 (戦前)
20	羽田家戦時資料	26 件	明治時代～昭和 (戦後)
21	佐々木商店吊看板	1 点	昭和 (戦後)
22	滋賀県行幸啓関係資料	4 冊	昭和 (戦後)



購入8 浅野長祥 脇坂安宅山上等巡見記 (旧景山家文書)



購入9 江州志賀郡三井寺領五別所村御検地帳



購入10 近江国滋賀郡木戸宿文書



受贈8 立葵紋瓦



購入11 東海道線大津京都間線路変更工事竣工記念写真帳



受贈9 藤野家近代学校関係資料



受贈13 上京町昭和御大典祝賀行列集合写真



受贈14 強力消火弾



受贈17 陶製湯たんぽ



受贈15 戦時紀念朱塗折敷

## 大津の仏教文化16 歴博周辺の仏さま

会期：平成28年6月7日（火）～7月24日（日）

【休館日：月曜日（18日を除く）、7月19日】

歴史博物館が建つ場所は、かつては園城寺（三井寺）の北院で、お寺の境内の中でした。園城寺は長等山の東麓一帯が境内で、金堂を中心とした中院と、その南北にある北院と南院からなっています。今も歴博の南隣には光浄院（国宝）が、北には新羅善神堂（国宝）があり、歴博は国宝に囲まれて建っているといってもいいでしょう。さらに周辺には、それら「三院」に属せずに活動を行う「別所」と呼ばれる山内寺院がいくつもあり、広大な敷地内で複雑な宗教活動が行われていました。長い歴史の中での栄枯盛衰の間に、多くの仏像が造像されては失われていきました。それでもなお、園城寺を中心としたこのあたりには多くの像が現存し、大切にまつられています。

本展では、本館の周辺に伝来している仏さまを、未指定の像を中心に紹介します。



大津市指定文化財 銅造千手観音立像  
平安時代（12世紀） 逢坂・近松寺蔵



木造地藏菩薩立像  
平安時代（12世紀） 園城寺（釈迦堂）蔵

## こぜき 「小関地蔵堂の地蔵菩薩を歴博ロビーに展示」

歴史博物館より少し南に歩き、園城寺おんじょうじを経て長等神社ながらの前を通り過ぎると、T字路に突き当たります。そこには「右小関越」と記された道標があり、そのとおり右に西進すると、山科方面に至る「小関越え」となります。この道は古代の北陸道と考えられている道で、すぐ南の逢坂おうさか越えとともに、交通の要所でした。この道標の向かいの角、まさに小関越えの入り口にあるのが小関地蔵堂です。ここより南の逢坂関までの間には、かつて園城寺の別所である微妙寺びみょうじや尾蔵寺びぞうじ、近松寺こんしょうじ、関寺せきでらなどといった寺院がたくさん建ち並んでいました。ですからここも園城寺の境内の中といえるでしょう。

その地蔵堂の中に、135.5センチの大きさの木造地蔵菩薩坐像が安置されていました。この大きさは「半丈六」といい、仏像の大きさの基準である「丈六（一丈六尺、約4.8m。坐るとその半分）」の半分の大きさです。仏像の多い大津の中でも、坐像では最大の地蔵菩薩です。

作風は極めて都ぶり、面長の頭部は彫りが浅く、目鼻口もあっさりとした印象を与えます。彫りも浅く、穏やかな作風を持ち、平安後期の12世紀の像に近似しています。一方、着衣ちやくえの形式や肉体の表し方が写実的になりつつあるところは、鎌倉時代に近づいているようにみえます。おそらく平安後期から鎌倉初期にかけての造像と思われます。

本像は昨年秋、当館の「比叡山一みほとけの山一」展で出陳されましたが、お堂の老朽化を鑑みて本館にそのまま寄託されました。地域で厚い信仰を集めていたお地蔵さんであり、秀逸であることから、今回、歴博のロビーに展示して、いつでも鑑賞できるようにいたしました。迫力ある姿を堪能していただきたいと思います。

(寺島典人)



地蔵菩薩像の展示風景